

# Sunk Cost Fallacy と歴史の考慮の両立について

10\_21292 本田 健太郎

合理的判断を下すことにおいて過去の出来事が思考の妨げになることはあるが、だからといって歴史（過去の出来事）を記憶することに意味がないと判断するのは、間違いだと思われる。なぜなら人間は学習することによって、思考を洗練することができるという側面を持ち合わせているからである。（ここでの思考が洗練されるというのは、より合理的思考ができるようになることを表す）例えば、将棋などのルールが決まっているゲームにおいて、駒の動かし方などの基本的ルールを学習しただけでいきなり有段者にはなれない。これは仮に合理的思考が常にできるのであればルールを把握しさえすればそのゲームにおいて最強になれるはずであるが、実際にはルールを把握しただけでは、合理的思考とは程遠い選択をしてしまうということである。より合理的な選択をするためには、実際に将棋をたくさん経験し、ある程度の勝ちのパターンを記憶し、思考を洗練させることが必要である。

それらを踏まえて **sunk cost fallacy** について考えてみる。ここでもまた具体例をあげてみると、「有料で DVD を借りてきたが、すぐにつまらないことを確信し、これ以上見るのは時間の無駄だと感じたが DVD が有料ということを考えると最後まで見ないのはもったいないと感じてしまいつまらないとおもいつつ見てしまう」これら一連の行動について考える。ここで問題なのは、DVD が有料という情報があるためにつまらなくても見てしまうという点である。しかし、これらの経験を学習し **sunk cost** について考えれば、またつまらない DVD を借りてしまっても、今度は途中で見るのをやめることができるのではないだろうか？つまり過去の出来事を記憶することで起こってしまう **sunk cost fallacy** もその失敗を学習する（過去の出来事を記憶する）ことで回避できるようになるのではないか。

よって過去の出来事を記憶することは **sunk cost fallacy** を考えても両立できると思われる